

おかげさまで2周年 さやまファミリー・サポート・センターは大勢の皆さんのやさしさに支えられています

子育てを地域で支え合うという目的でスタートしたさやまファミリー・サポート・センターの活動が、皆さんのやさしさに支えられ3年めに入りました。一歩一歩着実に歩みを進めてきた

ファミリー・サポート・センターですが、さまざまな生活スタイルの確立とともに、援助の内容も多様化してきました。



その中で、狭山市では預かってくださるかたが足りず、援助が難しいケースも出てきています。

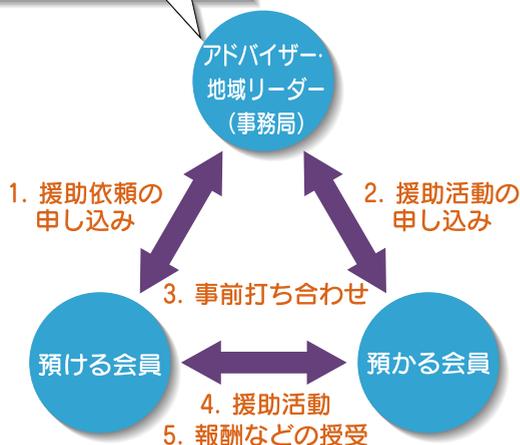
子どもが手を離れ、自分の時間が持てるようになったかた、ぜひ、少しの時間でもお手伝いください。もう一度子育ての喜びを味わってください。そして、未来ある子どもたちに、もっともっと多くの皆さんから、温かい手と目と心をかけていただきたいと思います。

さやまファミリー・サポート・センターは、こんな仕組みで運営しています

ファミリー・サポート・センターでは、子どもを預けたい「預ける会員」と、預かりたい「預かる会員」がそれぞれセンターに登録し、事務局の斡旋で相互援助の活動を行っています。斡旋までにアドバイザーと十分に話し合い、双方の事情や希望などを考慮した後に、援助して下さる会員さんが決まります。決まったら、今度はアドバイザーを交えた三者で事前打ち合わせを綿密に行って、初めて援助活動が成立します。ですから、預けるかたも預かるかたも、互いの不安や疑問、希望などを十分相手に伝え合ってから、子どもを預けられるのです。

現在の会員数は223名。活動内容は、働いている親御さんに代わって保育所や幼稚園、学童保育室

さやまファミリー・サポート・センター
富士見 1-14-11 北野第二ビル1階
☎956-7667
(月～土曜日、9時～17時。祝日と年末年始は休み)



などの送迎をしたり、その後自宅でお預かりするということが大半を占めています。さらに、お母さんが通院や外出などをされる際に、自宅でお預かりしたり朝の学校への送り出しなどの援助も行っていきます。

ファミリー・サポート・センターの活動は、有償であり、費用は1時間700円です。

毎月10日に入会説明会を開催し、詳しいシステムとルールの説明、そして実際の活動風景を紹介するビデオの放映を行っています。援助活動を経験した会員さんのお話なども聞けますので、興味のあるかたはぜひご参加ください。なお、お子さんのいらっしゃるかたには、保育もありま

ホントのところ…

預かる会員 座談会

子どもさんが来るのを 家族みんなで楽しみにしています。

よその子がいると、 うちの子が良い子になります。

いっぱいおしゃべりしてくれて、うれしい！

預かる会員の生の声を、
座談会形式で伺いました。

写真右から…

村山幾代さん（富士見在住）

菅野朝子さん（北入曽在住）

石橋弘子さん（水野在住）

司会：牧志恵子

（さやまファミリー・サポート・
センターアドバイザー）



牧志 まず始めに…皆さんは、どんなきっかけで会員になったんですか。
石橋 私は子どもが大きくなって、時間に余裕ができたので、広報紙を見て立ち上げのときの勉強会に参加したのがきっかけです。

村山 私の場合は、娘が最初にこのファミサポを知って、子どもが好きなだから預かるう…と預かる会員になったんです。でも子育ての経験のない娘にすべてを任せるのは不安だったので、私もすぐに入会して2人で預かったりしています。

菅野 私も広報紙を見たのがきっかけです。うちは当時、小学校と幼稚園、入園前という3人の子どもがいて、一番下の子の遊び相手として預かり始めたんです。

牧志 お子さんを預かるようになって、何か変わってきたことはありますか。
石橋 主人が変わりました。以前はどちらかというと亭主関白的な人だったのに、お子さんを預かっていて自分たちの生活のリズムが少々狂ってしまっても怒らずに付き合ってくれるようになりました。

村山 そうなんです。うちは主人も私も子ども好きですから、お子さんを預かるとき

はすごく楽しみにしていますよ。
菅野 うちは、よその子を預かると自分の子どもが良い子になります。今日も、幼稚園に送っていく最中に「お母さん、今日はファミサポ？」なんて聞いてくるんですよ。

牧志 そうなんです。子ども同士で、本当にうまく付き合うものですよ。ファミサポの入会説明会や講習会などのときに保育室を設けるのですが、隔ついで独り、ジューツとしていた子を、だれかが自然に仲間の中に引き込んであげたりして…。そういうのを見てみると、本当に子どもって不思議だと思えます。

石橋 そうですね。それに、今はよその子と遊ぶ機会があまりないでしょうから、そういうときに年齢の違う子と遊ぶと、良い経験になるでしょうね。

菅野 そうなんです。うちも子どもたちが、よそのお子さんを預かるというも最後にすごく楽しかった。また来てね。」って言って、送り出すんですよ。

牧志 家の中が大変…例えば、散らかされたり物を壊されたり、ということはないですか。
菅野 うちの子どもがいますし、子どもの友だちもよく遊びに来るので、「いつもよりちょっと散らかっているかな」というくらいですよ。

村山 私はね、子どもさんの具合が



悪くなければ、一緒に近所の児童館に遊びに行くんです。児童館って、たくさん玩具や遊び道具があって楽しいわりに空いていて、子ども連れで遊びに行くには最適ですよ。

牧志 お子さんを預かって遊ばせるときに、困ったことはないですか。

石橋 ほとんどないです。だいたい子どもさんから「おばちゃん、これで遊ぼう。」って言うてくれるので、慣れてしまえば何も心配ないです。うちの子はもう大きくなったので、最近口もきいてくれないけど、よそのお子さんがいっぱいおしゃべりしてくれたりするのうれしいですね。
牧志 そうですね。夕飯時に預かっ

た子が、一緒にお手伝いをしてくれた。なんて話を聞いたこともありません。

石橋 私はお手伝いをしてもらったことはありませんが、最近の親御さんは忙しいから夕飯時にもパパママと台所に立ったりしているようなので、自分は食べなくても、その子が食べているときに必ず一緒にいるようにしています。

牧志 菅野さんのお宅は、お子さんがいらつしゃいますけど、子ども同士の喧嘩は大丈夫ですか。

菅野 ないです。もともと友だちが大勢遊びに来ていたので、2、3人増えてもどつっことなかったです。
石橋 今、歳の違う子どもが大勢で遊んでいる光景を見かけないですから、とても良い環境ですね。

牧志 そうですね。そして、そういう大勢の子と一緒に遊ぶ時間も大切ですが、お母さんと2人で向き合ってお話したり遊んだりする時間というの、必要ですよ。子どもの成長には、どちらも大切な時間だと思います。皆さんは、お預かりした後、お母さんとお子さんについて話すことはありますか。

石橋 少しはあります。
村山 私は、お母さんに「悪いことをしたら、しかってください。」と頼まれるのですが、どつっこしても「かわい、かわいい」になつてしまつて、

怒れないんです。本当のおばあちゃんみたいに何でも許してしまつて……。

菅野 うちの父や母もそうですよ。でも私たち両親がどつっこしても厳しくなつてしまつたら、実家に行つたときくらいは甘やかされても良いかなと思つて黙認しています。

牧志 それから、皆さんに急な依頼をしてしまつことがあると思います。その点はどつっこですか。

石橋 お母さんがお仕事をされている場合など、急に明日の援助をお願いしたいとか、残業になつて迎えに行けないなど、困ることも多いと思います。そんなときは、自分の都合がつけば急な依頼でも受けることもあります。お母さんに「本当に助かりました。」と喜んでもらえるのは、私もうれしいですから。

牧志 預かっているときに困つたことなどを、お母さんに伝えるのが難しい……というかたもいらつしゃると思います。いかがですか。

石橋 お伝えするのが難しいことも事実です。でも、お預かりするお子さんが本当に良い子はばかりで、困ることなどないのがほとんどですよ。

牧志 そうですか。事務局では、先ほどの話のように、急な依頼があったときや、連日の援助依頼などに備えて、1人のお子さんに對するパートナーを複数の預かる会員さんをお願いするようにしていきたいと考え

会員の声

ファミリー・サポート・センターのアンケートから、抜粋・要約しました
子どもを預けた会員さんから
(お礼のこぼれ)

- 「本当に助かりました。」
- 「おかげで仕事を辞めずすみしました。」
- 「核家族なのに近くに親戚ができたようで、うれしいです。」
- 「地域で人間関係が広がりました。」
- 「預かっている間に困つたことがあったら遠慮なく直接伝えてください。」
- 「自分の子どもに接するようになつていて、とてもうれしかったです。」
- (どんな援助を希望しますか)
- 「買い物や習い事など自分の時間のため。」
- 「子育てのストレス解消のため。」
- 「できれば夜間。」
- (センターに對する要望など)
- 「本当に困つたときに、一緒に真剣に考えてくださつてありがたかったです。」
- 「情報をこまめに提供してくださるので助かります。」
- 「親子で楽しめる催しや、市内の幼稚園・保育所の先生との懇談などを企画してください。」
- 「預ける会員の自宅まで面倒を見てくれる人がいると、子どもにとつてもストレスが少ないのではないかと思います。」

ているんです。

石橋 それには、「できる」とを・できる人がする」という気持ちで、自分が今まで社会にお世話になってきたのを、還元するような考えの人が増えてくれると良いですね。

牧志 そうですね、ありがたいですね。預ける会員さんは「自分の希望をかなり積極的におっしゃるかたが多いのですが、それができるかどうかは預かる会員さんの「都合」で決まることですから、無理せず、遠慮せずに、何か困ったことがあったら事務局に言っしてほしいです。それが私たちアドバイザーの仕事の一つでもあるんですから。

石橋 そうですね。それから、初めはだれでも「よそのお子さんを預かるなんて、何かあったらどうしよう。」と自信がないのです。でも、1時間だけでも経験してみると本当に楽しくなると思います。だから、子育てが終わって自分の時間を持つのもよくなったかたなど、お子さんが好きなたに、ぜひお手伝いしていただきたいと、預かる会員としても思いますね。

牧志 ありがとございます。会員さんの中には、「近くに親戚ができたみたい。」と言ったださるかたもいらっしゃるんですよ。

石橋 うれしいですね。私たちは人間同士のお付き合いの中でお手伝

いをしていられるという感覚ですから、そういうかたにどんどん関わっていただきたいですね。

牧志 大切なお子さんを預かるという約束と責任は、会員さんお一人お一人が、それぞれ自覚して持つていただくものです。入会説明会の際にそれを十分理解していただいたうえで活用していただきますので、本当に安心してお子さんを預けられると



いう実感を持てると思います。そしてこれは、事務局として最も大切にしていきたいと思っっていることです。それから、このファミサポは働いているかたにしか利用できない、ということはないんです。例えば、家でふだん2人つきりでお子さんと向き合っっているお母さんがリフレッシュするために講演を聴きに行きたい、美容院に行きたい...という風にご利用

していただくのも可能なんですよ。

菅野 すつと子どもと2人きりである母親にとっては、一人でちよつとゆつくりと買い物をするだけでも、ずいぶんと気持ちが安まるものですよ。リフレッシュという目的だけじゃなく、歯医者に行くこともままならない場合もありますからね。

村山 そう。それに私は何よりも、喜んでくださるかたがいる...ということが、本当につれしいんです。

私は主婦としてすつと過してきているので、社会の中で自分が役立っていると思っことがあまりなかつたんです。だから、できる時間・できることを...というボランティアのポイントをおさえ、その気持ちを忘れないうでやっていきたいです。特にこのお手伝いは、自分の主婦としての経験や、子育ての経験を生かせる貴重なボランティアなんです。

牧志 皆さん、「自分の考えをすつかり持つて、気持ちよくお手伝いをしてくださるので、事務局としても本当にありがたいと思っています。これからも、皆さんに気持ちよく活動し、利用していただけるようなファミリー・サポート・センターとしていきたいと思っています。今日はお忙しいところ、本当にありがとございます。

(敬称略) 文中写真はイメージ)

預かった会員さんから

(預かってよかったことは)

「元気の良い子どもたちに、いつもパワーを分けてもらっています。」

「人の役に立てる、喜んでいただけるといっのは、こんなに幸せな気持ちになれることなんです。」

「預かるお子さんが来るのを、わが子も楽しみにしています。」

「よその子がいると、自分の子どもにもやさしくなれます。」

「心からお礼のことはをいただき、本当にうれしかったです。」

(預ける会員さんに一言)

「事故のないよう、細心の注意を払っています。」

「希望や要望は、どんどん言っってください。」

「安心できる信頼関係を築いていきたいです。」

(センターに対する要望など)

「少しの援助でも遠慮なく言っってください。」

「お茶飲み会でいろいろな話ができるのがいいですね。」

あなたもぜひ、ファミリー・サポート・センターのお仲間になりませんか。

問い合わせ

月々土曜日、9時～17時にさやまファミリー・サポート・センター(祝日と年末年始は休み)へ ☎956・7667